【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成19年10月11日(2007.10.11)

【公表番号】特表2007-504290(P2007-504290A)
【公表日】平成19年3月1日(2007.3.1)
【年通号数】公開・登録公報2007-008
【出願番号】特願2006-524371(P2006-524371)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｊ　5/06　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｊ　5/06　ＣＥＲ
Ｃ０８Ｊ　5/06　ＺＡＢ
Ｃ０８Ｊ　5/06　ＣＥＺ

【手続補正書】
【提出日】平成19年8月15日(2007.8.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
押出し機バレルおよび押出しダイを含む押出し機装置において、
繊維強化熱可塑性ポリマーを処理することを含む成形製品の製造方法であって、
前記押出し機バレルは、フレキシブル圧力ホースを用いて押出しダイに連結されていて、ロボットハンドリングユニットに連結した、溝付きダイ通路において偏心を生じるようにオフセットすることが可能な内側または外側ダイを持つ心棒膨張押出しダイを通して送り出すことを特徴とする製造方法。
【請求項２】
繊維強化熱可塑性ポリマーは、ポリビニルクロライド、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ酢酸ビニル、ポリエステル・ポリマー、ABSコポリマー、ポリアミド、熱可塑性エラストマー、および弾性ポリマーからなる群から選択されることを特徴とする、請求項１記載の製造方法。
【請求項３】
熱可塑性ポリマーは、熱可塑性エラストマーであることを特徴とする、請求項１記載の製造方法。
【請求項４】
熱可塑性エラストマーは、ポリウレタン-ポリエステル・エラストマー、セグメント化ポリエーテルおよびポリエステル、ナイロン・ブロック・ポリマー、ポリオレフィン樹脂とモノ-オレフィン・ゴムとの動的に部分的に硬化されたブレンド、加硫化ジエン含有エラストマー、天然または合成ゴム、またはそれらの混合物から選択されることを特徴とする、請求項３記載の製造方法。
【請求項５】
熱可塑性エラストマーは、次の(A)、(B)、(C)および(D)を含む繊維強化熱可塑性エラストマーであることを特徴とする、請求項３記載の製造方法。
(A)次の(i)および(ii)を含む熱可塑性ゴム。
(i)５０重量％以下の抽出可能ゴム（23℃、48h、シクロヘキサン）を含有する少なくとも部分的に硬化されたゴム、

(ii)熱可塑性ポリオレフィン・ホモポリマーまたはコポリマー。
(B)官能化ポリオレフィン
(C)メラミン、ウレア、ベンゾグアナミンおよび／またはグリコルリルを、ホルムアルデヒド、エポキシ樹脂およびイソシアネート樹脂と反応させることにより得られる樹脂から選ばれる架橋剤。
(D)グリセロール-ポリグリシジルエーテル、ビスフェノールAとエピクロロヒドリンとの反応生成物、および／またはブロック化ジイソシアネートの群から選ばれたエポキシ樹脂によって接着性活性化された強化繊維。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３８】
(A)i.５０重量％以下の抽出可能ゴム（23℃、48h、シクロヘキサン）を含有する少なくとも部分的に硬化されたゴム、および
ii.熱可塑性ポリオレフィン・ホモポリマーまたはコポリマー
を含む熱可塑性ゴム
(B)官能化ポリオレフィン
(C)メラミン、ウレア、ベンゾグアナミンおよび／またはグリコルリルをホルムアルデヒド、エポキシ樹脂およびイソシアネート樹脂と反応させることにより得られる樹脂から選ばれる架橋剤
(D)グリセロール-ポリグリシジルエーテル、ビスフェノールAとエピクロロヒドリンとの反応生成物および／またはブロック化ジイソシアネートの群から選ばれたエポキシ樹脂によって接着性活性化された強化繊維。